



汐鳴り

二宮中学校学校だより

令和元年度

No. 9

発行：松本雅志

◎継続することの大切さ

令和2年が幕を開けました。今年はいよいよ東京オリンピックが開催されるという事で、マスコミも含め様々なところでもこの話題が出されています。昨年はラグビーワールドカップが予想以上の盛り上がりを見せ、日本のラグビーへの関心が一気に高まったことが記憶に新しいところです。

今年最初の始業式では、オリンピックにちなんで二宮町初のオリンピックである、鈴木真理選手についてのお話をしました。鈴木真理選手は、二宮西中学校の出身で、中学生の頃に自転車のロード競技に興味を持ち練習をし始めました。高校進学後はお父さんが実業団チームを立ち上げ、二人三脚で競技に取り組み、全日本ロード選手権優勝、アジア選手権優勝やアジア最優秀賞など、素晴らしい成績を収め、2004年のアトランタオリンピックに出場を果たしました。現在でも町立体育館に鈴木真理選手の自転車やゆかりの品々が展示されているので、町民の間でもその存在を知っている方も多いと思います。

二宮西中学校に在籍当時は、体格も特に大きい方ではなく、学年の中でも目立つような存在ではありませんでした。その当時は誰も、鈴木君がオリンピック選手となるなど想像もしていなかったと思います。

2004年にアトランタオリンピックへの出場が決まった時、鈴木君の同級生やゆかりのある先生方が集まり、ラディアンで壮行会が開かれました。その時初めて、鈴木真理君が中学時代に朝5時から自転車での練習を始めていたことや、高校時代には自転車部が無い高校だったため、一人で練習に励んだことを知りました。また、鈴木選手は自分の出会った自転車競技を極めようと、週末には150キロもの距離を走ったり、時にはペダルに重りを下げるなど、徹底的に自分を鍛え上げたそうです。

鈴木選手から学ぶ事は、人は最初から大きく違うことはないという事、違いがあるとすれば目標を持ち、その目標を達成するためにどれだけ強い想いを持つことが出来るか、そしてその実現に向けて具体的にどのくらい努力を続けられるかという事なのではないでしょうか。

中学生には無限の可能性があります。自分のあり方を決めるのは自分自身以外にはありません。自分たちのすぐ近くに目標を持って、オリンピックに出場した人がいたことを胸に刻み、夢を持って令和の時代を生きていってほしいと思います。



◎いよいよ受験シーズン

1月の声を聞くと、いよいよ受験シーズンが近づいてきたと感じます。小学校と中学校の大きな違いは、中学校では義務教育を修了するため、それぞれが自分の進路に向かって意思決定を行わなければならないという事です。近年は中学校卒業後、就職をする選択はほとんど見られなくなり、進学を希望する生徒が大部分を占めるようになりました。また、公立高校も私立高校も所得に応じて、学費等の支援制度が拡充され、経済的な負担が緩和されてきています。

今年度は、県立高校においてインクルーシブ教育実践推進校が県内に14校設置され、知的障害を持った生徒も一緒に学習する取り組みが広がりました。この近辺では二宮高校と足柄高校がそれに当たります。また、平塚学区で長い伝統を持つ、平塚商業高校と平塚農業高校が合併し平塚農商高校という名称のもと、新しいカリキュラムの学校として開校します。

入試制度も年により様々に変化し、多様な進路先を選択することが可能となっています。自分の個性や適正、能力にあった進路先を選択することが、将来のキャリアを伸長させるために必要なのではないのでしょうか。1年後、2年後進路選択をする1、2年生もしっかりとしたビジョンを持って欲しいと思います。

◎PTA五校合同講演会より

1月22日(日)ラディアンホールにて、二宮町PTA連絡協議会の五校合同企画事業による講演会が行われました。「いのちを考える」と題されたテーマで、1部は、「現役大学生の描くいのち」、2部は「いのちのバトンタッチ」の2部構成で行われました。

1部の「現役大学生が描くいのち」では、食糧問題をきっかけに狩猟に興味を持ち、現在も猟師として動物の狩猟を行い、さらにそこから食といのちのつながりを考える活動をしている菅田悠介さんと、大学でカンボジアの地雷除去の活動をしているNPO法人に入ったことをきっかけに、カンボジアでの地雷除去の活動を支援している谷津綾菜さんから、活動を通じて見たいのちについてのお話を伺いました。

菅田さんの話からは、普段の生活では見えてこない、(見ようとしていない)いのちについて、普段口にしていない生き物たちにもいのちがあり、われわれの「生」がその生き物たちのいのちの上に成り立っていることについて改めて考えさせられました。また、谷津さんの話からは、東南アジアの地で、いまだに多くの人たちが地雷という戦争の遺物の犠牲となっていること、そのことを深く知ることもなく、平和を享受している先進国のあり方について、改めて見直す機会を頂きました。

2部の「いのちのバトンタッチ」は、ご自身の娘さんが小児がんにかかり、その尊いいのちをわずか6歳で閉じることとなった、鈴木中人さんのお話でした。鈴木さんのご家庭はどこにでもある普通の4人家族でした。その家庭が、次女の小児がんの発症から大きく変わっていきます。そして、懸命の闘病もむなしく6歳で天国へ旅立ちます。自分の子どもを失うことがどれほど辛い事か、話を聞きながら涙をこらえることが出来ませんでした。鈴木さんは子どもたちに「自分のいのちを粗末にはいけない。親より早く死んではいけない。」と強く訴えかけ、講演を終了しました。

「いのちを考える」ことは永遠のテーマです。最近、「誰でもよかった」「もうどうなってもかまわない」などと言って、簡単に人のいのちを奪う犯罪を起こす事例も多数みられます。自他のいのちを大切にすることや、今を生きることの意味、いのちの尊厳などについて深く考えさせられる講演会でした。



◎学校修繕活動2回目について

学校運営協議会では、学校修繕活動の第2回目として、グラウンドの南側にあるスタンドの修繕を行うこととしました。

これは、2学期に学校運営協議会の藤原会長と二宮中学校の生徒会本部が給食を一緒に食べながら、学校内で修繕が必要な箇所について話し合いをしていたところ挙げられた箇所です。

グラウンドのスタンドは、木製のベンチの形になっており、部活動のみならず体育祭などでも荷物を置く場所や控えの場所などで使用されています。

ところどころ木材が朽ちてしまい、使用できない場所も多く、簡易的な修繕をしてある箇所も限界が来ているため、今回修繕を行う事となりました。

期日は2月29日(土)3月1日(日)の2日間、時間は10時~15時を予定しています。日曜大工など、腕に自信のある方でも、あまり経験が無い方でも、一緒に学校を直しませんか?

日時 **2/29, 3/1** 10時~15時
(土) (日) (雨天中止)
場所 **二宮中学校** (集合: 東側昇降口)
内容 **学校設備の修繕を行います**
対象 **中学校生徒、保護者、地域のみなさま**

二宮中学校 学校運営協議会主催
設備修繕

どなたでも参加いただける作業です!

今回は、生徒会から要望のあった「海側の木製ベンチ」を修繕します。子供達のため頑張りましょう!

数時間の参加でも大丈夫!

今回は作業量が多いため2日間実施しますが、どちらかだけ、しかも数時間の参加という方も大歓迎!

参加申し込みはメールが当日現地へ!

申し込みは ninoty.pta.2019@gmail.com まで、お名前とご参加の日付、時間を送付してください
あるいは当日現地(東側昇降口)へ集合してください



当日の持ち物

- ・軍手
- ・工具(あれば)
- ・弁当、水筒
- ・タオル など

二宮中学校
学校運営協議会
ninoty.pta.2019@gmail.com